

X会議での指摘事項一覧

No	回	議題	指摘事項の内容	担当局	現状報告	期限	実施済
4	第1回 (7月)	経営分析の経過報告	Cレベルの課題については、都市計画的な目標も含め、土地とお金を管理する専門の局を新しく作るなど、集中的に取り組む体制を作るべき。	財政・変革局	令和7年度4月の組織改正において、保有する全ての施設を対象に利用者目線で検証し、社会経済状況の変化や市民ニーズの多様化に応じた施設のあり方を見直していくため、担当部長ラインを新設し体制強化を行った。面的な視点での体制整備については、今後の議論の進捗を踏まえ検討する。	R6年度末	○
5	第1回 (7月)	経営分析の経過報告(公園)	現在の1,700公園は、拡大しすぎているのではないかと。データを含め見直す必要がある。	都市戦略局 都市整備局	北九州市の都市公園の個所数・面積については、経営分析において、他都市との比較を行ったが、多すぎる・少な過ぎるということはない。ニーズの少ない公園については、新たな活用方法の模索など、あり方検討に取り組む。	R8年度末	
6	第1回 (7月)	経営分析の経過報告(公園)	公園の管理は、10年後も公園愛護会を前提として本当に大丈夫なのか、真剣に考える必要がある。	都市戦略局 都市整備局	経営分析において、本市の公園維持管理にとって必要不可欠である「公園愛護会」の継続に向けた施策を検討する。また、ボランティアの活動の新たな担い手として、企業や団体が参加しやすい「公園応援団」の促進を図る。	R9年度末	
7	第1回 (7月)	経営分析の経過報告(公園)	直営による公園管理は根本的に時代遅れ。外郭団体やNPO等が全体をみてくれるような体制づくりや、区役所への分権化を考えるべき。	都市戦略局 都市整備局	公園の維持管理については、既に、各区役所において、業務・エリア別に業務委託を実施し、区役所が主体となって市民からの要望等に対応している。		○
8	第1回 (7月)	経営分析の経過報告(子育て支援)	民営ですごくカッコいい子育て施設を運営しているNPOや、ベンチャー企業の力を借りるべき。	子ども家庭局	民間事業者の活力やノウハウを生かすことにより、提供するサービスの質の向上と、より効率的・効果的な施設運営を両立させている。	R6年度末	○
9	第2回 (8月)	冒頭あいさつ	文化施設については、現状維持ではなく資源の配分をどう考えるのが良いか、本当に楽しめ与えるラストワンマイルの持っていき方をどうするのか、運営主体をどうしていくのか考える必要がある。	都市ブランド創造局	経営分析「文化振興施策」で他都市視察や調査を実施のうえ、博物館系施設に対する民間活力、経営視点等の導入や、事務局運営体制の効率化など検討を進めることとし、経営分析報告書にまとめ、公表した。引き続き、経営分析報告書に基づき検討を行っていく。	R7年度末	
14	第2回 (8月)	経営分析(文化振興施策)	政令市クラスでミュージアムを全部直営でしている都市は多分ない。事務職員の数がすごく多く、合理化・集約化・民間委託等の選択肢を検討すべき。	都市ブランド創造局	経営分析「文化振興施策」で他都市視察や調査を実施のうえ、博物館系施設に対する民間活力、経営視点等の導入や、事務局運営体制の効率化など検討を進めることとし、経営分析報告書にまとめ、公表した。引き続き、経営分析報告書に基づき検討を行っていく。	R7年度末	
15	第2回 (8月)	経営分析(文化振興施策)	複数局が様々なミュージアムを所管している。縦割りをやめ、市のミュージアム全体のあり方を考えるべき。	都市ブランド創造局	まずは、局所管の施設のあり方を整理・検討のうえ、経営分析報告書を作成、公表した。引き続き、経営分析報告書に基づき検討を行っていく。	R7年度末	
16	第2回 (8月)	経営分析(文化振興施策)	ホールについては、一般市民が利用する施設は、地元サービス施設と同じようなものとして、地域住民やボランティアなど地域に返していくべき。	都市ブランド創造局	経営分析「文化振興施策」の中で、ホール系施設について、市民利用や興行目的利用などの位置づけを整理し、経営分析報告書を作成、公表した。引き続き、経営分析報告書に基づき検討を行っていく。	R7年度末	
17	第2回 (8月)	経営分析(文化振興施策)	文化施設がすごく多い。特にミュージアムが多い。はたしてたくさん施設がこの人口で必要なのか考えるべき。他都市と比べて多くないという資料があったが、精査する必要がある。大都市は民間ミュージアムが多いという特殊事情もある。	都市ブランド創造局 財政・変革局	①文化施設の設置・運営状況について、北九州市及び他都市の状況を調べ、博物館等施設の数はいずれも平均を下回っていることが分かった。 ②文化施設の設置・運営状況を踏まえて、公共施設マネジメントの方向性を整理する。	①R6年度末 ②R7年度末	①○
18	第2回 (8月)	経営分析(文化振興施策)	サイエンス・環境系のミュージアムは中身が古いと意味がない。アップデートする余裕がないのであれば、廃止や用途転換すべき。	環境局	No.101～No.108で取り組んでいく。(本項目削除)	—	
19	第2回 (8月)	経営分析(文化振興施策)	専門家を入れた財団や独立行政法人でスキルを磨いて運営すべき。直営原則が果たして良いのか。直営維持自体が異例なので、直営維持するならば説明責任がある。	都市ブランド創造局	経営分析「文化振興施策」で他都市視察や調査を実施した。直営も含めて最適な運営形態を検討することとし、経営分析報告書を作成、公表した。	R6年度末	○
20	第2回 (8月)	経営分析(文化振興施策)	直営は、条例・規則・予算(財源)などの縛りがあり、百害あって一利なし。国立も大阪市も独立行政法人化している。今風にならないといけない。	都市ブランド創造局	経営分析「文化振興施策」で他都市視察や調査を実施した。直営も含めて最適な運営形態を検討することとし、経営分析報告書を作成、公表した。	R6年度末	○
24	第2回 (8月)	経営分析「公共投資」	今ある施設を全部持ち続けるのか。廃止や用途転換、民間売却などでボリュームを下げれば、公共投資のあり方の議論自体いらなくなるのではないかと。	財政・変革局	公共投資の考え方については、令和7年度当初予算(案)説明資料の中で公表し、令和7年5月に経営分析報告書を公表した。保有する公共施設の最適化に向けて、公共施設マネジメントの考え方による個別施設の点検と適正化を進める。	R7年5月	○

No	回	議題	指摘事項の内容	担当局	現状報告	期限	実施済
25	第2回 (8月)	経営分析「公共投資」	人口獲得競争の中で、市としての競争力をつけるため、子育て系の施設など新たに何か作る施設の議論もしなくてはならない。	財政・変革局	公共投資の考え方については、令和7年度当初予算(案)説明資料の中で公表し、令和7年5月に経営分析報告書を公表した。 令和7年度当初予算において、「北九州市ポートレースによる未来のまちづくり投資基金」を活用して、将来に向けたまちの成長及び発展に資する公共施設の付加価値を高める整備を行うこととしている。特に令和7～9年度は、小中学校のトイレの洋式化やこどもまんなか公園づくりなど、こども・若者が多く利用する施設整備を集中的に行うこととしている。	R7年5月	○
26	第2回 (8月)	経営分析「公共投資」	市債の残高以前に、公債費の支払いや現金ベースで結構しんどくなるということがあ るかもしれないので、その分析を加えてほしい。	財政・変革局	公共投資の考え方については、令和7年度当初予算(案)説明資料の中で公表し、令和7年5月に経営分析報告書を公表した。なお、令和7年度当初予算を合わせて公表している中期財政見通しの中で、公債費の今後5年間の見通しをお示している。	R7年5月	○
32	第2回 (8月)	講評(文化施設)	漫画ミュージアムは、都市のあるべき姿に 対してどういうコミットをしているのかと いった、全く別の観点から評価してほしい。	都市ブランド創造局	経営分析「文化振興施策」で他都市視察や調査を実施のうえ、博物館系施設に対する民間活力、経営視点等の導入や、事務局運営体制の効率化など検討を進めることとし、経営分析報告書にまとめ、公表した。 引き続き、経営分析報告書に基づき検討を行っていく。	R7年度末	
33	第2回 (8月)	講評(文化施設)	館の運営主体だけでなく、利用者がお互い 不快にならないようにするにはどのような 施設運営をするべきなのか考える必要があ る。	都市ブランド創造局	施設の点検を踏まえたワーキンググループでの活動などを踏まえ、施設の 禁止事項等を見直した。	R6年度末	○
35	第2回 (8月)	講評(文化施設)	どういう施設運営をすれば来場者の満足度 が高まるか、組織体系や運営統治、インセン ティブや処遇など構造的に検討する必要があ る。	都市ブランド創造局	経営分析「文化振興施策」で他都市視察や調査を実施のうえ、博物館系施設に対する民間活力、経営視点等の導入や、事務局運営体制の効率化など検討を進めることとし、経営分析報告書にまとめ、公表した。 引き続き、経営分析報告書に基づき検討を行っていく。	R7年度末	
38	第3回 (10月)	経営分析「公共施設 マネジメント」	施設所管局でどこをどうしたいという最適 化の形を提案し、それを改革部門がしっかり サポートしながら方向性がずれないように ナビゲートし、どんどん個別論を出してい てほしい。	財政・変革局	市政変革推進室が各施設の関係データを整理するなどサポートを行いながら、施設所管局による点検を実施した。	R6年度末	○
39	第3回 (10月)	経営分析「公共施設 マネジメント」	利用者と市民全体の違いをどう捉えるのか、 一生懸命一つ一つ考えないといけない。	財政・変革局	市政変革推進室が各施設の関係データを整理するなどサポートを行いながら、施設所管局による点検を実施した。	R6年度末	○
41	第3回 (10月)	経営分析「公共施設 マネジメント」	5市対等合併やいわゆる迷惑施設の設置の 経緯、それぞれの区の特性を踏まえて具体 化するべき。	財政・変革局	施設の設置経緯や区の特性等の視点を踏まえながら、施設所管局による 点検を実施した。	R6年度末	○
42	第3回 (10月)	経営分析「公共施設 マネジメント」	施設の多機能化だけでなく、役割の明確化 を行うことも大事。例えばスポーツ施設で は稼ぐための施設と地域で日常的に使うた めの施設、稼ぐための施設は新たな時代に あった施設に置き換えていく必要。	財政・変革局	市政変革推進室が各施設の関係データを整理するなどサポートを行いながら、施設所管局による点検を実施した。	R6年度末	○
43	第3回 (10月)	経営分析「公共施設 マネジメント」	他局の施設に機能を移管すれば自局の施設 は廃止するという、互いに他局に期待し がちであり、誰かが調整する必要。	財政・変革局	市政変革推進室がサポートを行いながら、施設所管局において最適案の検討を行う。 各局から提出された提案については、関係部局の連携を踏まえた協議を行う。	R7年度末	
48	第3回 (10月)	経営分析「公共施設 マネジメント」	公園も公共施設マネジメントの報告における 個別点検のように、同じようなやり方で 検討を進めた方がよい。	都市戦略局 都市整備局	大型の公園施設のあり方については、当該手法に倣って検討していく。	R8年度末	
51	第3回 (10月)	経営分析「公共施設 マネジメント」	民間のノウハウの活用には、他地域の事例 を権限ある人間が見に行く、民間企業にア ポイントを取って営業するなど、外にでてい く活動を市役所内で共有しつつ広げるべき。 。	財政・変革局	各分野において、他都市事例等の視察を実施。引き続き、施設のあり方の 検討に向けて、他都市事例研究とあわせて民間企業への営業などを行う。	R7年度末	
56	第3回 (10月)	経営分析「公共施設 マネジメント」	財政上の視点を入れた目標設定をしながら 検討を進めていくことが重要。	財政・変革局	市政変革推進室が各施設の関係データを整理するなどサポートを行いながら、施設所管局による点検を実施した。	R6年度末	○
58	第3回 (10月)	経営分析「公共施設 マネジメント」	チェックリストでチェックし始めると、それに 没入して本質を見逃しかねない。チェック後 に現場を見る、現場の声を聞く、すりあわせ ていくという作業が非常に大事であり、 後々の納得度に繋がる。	財政・変革局	市政変革推進室が各施設の関係データを整理するなどサポートを行いながら、施設所管局による点検を実施した。	R6年度末	○
59	第3回 (10月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	状況変化に合わせ、直営、民間に頼む、頼み 先がなければ自ら団体を作って人を他所から 呼んでくるなど、役所の仕事の仕方・組み 立て方を考え直す必要がある。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務 の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当 局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、その うえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結 する「連携協定」において明記する。	R7.6	

No	回	議題	指摘事項の内容	担当局	現状報告	期限	実施済
60	第3回 (10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	外郭団体の仕事の仕方はガラッと変えないといけない。一番大事なのは専門性をもった人材。民間から取る場合も全国から専門ノウハウを持った人を探し、例えば劇場や公園などにプロを入れていく。	財政・変革局	【マネジメント(ヒト)】 団体にとって、専門知識と高い意識を持つ人材が不可欠である。人材の確保は、サービスの質を維持・向上し、市民の多様なニーズに応えるための基盤となるため、担当局において、団体が関連する政策について今後のあるべき方向性を整理したうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体と担当局の協議により、市OBも含め必要な人材の能力を明確化する。	R7.6以降	
61	第3回 (10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	都庁の場合は、子会社みたいなものを作って、役所の仕事の受け皿、外郭団体を再構築していった。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
62	第3回 (10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	外郭団体に役所のOBが行ってもいいが、その分野を経験したことのない人は問題外。	財政・変革局	【マネジメント(ヒト)】 団体にとって、専門知識と高い意識を持つ人材が不可欠である。人材の確保は、サービスの質を維持・向上し、市民の多様なニーズに応えるための基盤となるため、担当局において、団体が関連する政策について今後のあるべき方向性を整理したうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体と担当局の協議により、市OBも含め必要な人材の能力を明確化する。	R7.6以降	
63	第3回 (10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	外郭団体のガバナンスが緩い。理事会が年2回から4回というのは企業では考えられない。また、戦略的な議題もほぼなく、役員会として機能していない。	財政・変革局	【ガバナンス(団体の自律性)】 適切な団体ガバナンスは、透明性と信頼性を確保し、責任ある運営を実現する。これにより、質の高い市民サービスを安定的かつ公正に提供できるため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで、団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体においてガバナンス(役員体制、経営体制)を再構築する。	R7.6以降	
64	第3回 (10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	理事会に過半数の民間企業経験者を入れて喝を入れる。常勤だと処遇や適材が見当たらない問題があるが、非常勤であれば結構入れることができる。経営ガバナンスという視点であれば、他の分野の民間経験者でも十分機能する。理事の数を増やし、過半数が民間の人になると理事会の空気が変わってくる。	財政・変革局	【ガバナンス(団体の自律性)】 適切な団体ガバナンスは、透明性と信頼性を確保し、責任ある運営を実現する。これにより、質の高い市民サービスを安定的かつ公正に提供できるため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで、団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体においてガバナンス(役員体制、経営体制)を再構築する。	R7.6以降	
65	第3回 (10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	外郭団体は市役所の外の仕事を積極的に取りに行く。他都市にサービスを提供しながら、必要なものは作ればよい。一方、役割を終えたもの、もう要らないものは潰した方がいい。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
66	第3回 (10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	外郭団体のうち、劇場や公園などについては、北九州市のブランドや信用、大きな規模の仕事ができるなどをもっとアピールし、人材を集めるべき。	財政・変革局	【マネジメント(ヒト)】 団体にとって、専門知識と高い意識を持つ人材が不可欠である。人材の確保は、サービスの質を維持・向上し、市民の多様なニーズに応えるための基盤となるため、担当局において、団体が関連する政策について今後のあるべき方向性を整理したうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体と担当局の協議により、市OBも含め必要な人材の能力を明確化する。	R7.6以降	
67	第3回 (10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	外郭団体の新設を言い出せる雰囲気ではないのは分かるが、スクラップや統合をしながら、必要なものは作ればよい。一方、役割を終えたもの、もう要らないものは潰してしまう。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
68	第3回 (10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	外郭団体側から「こういうことができる。こういうことをしたい」と市にほとんど言っていない状況。「市にはないこういう力・ノウハウがあるのではないかと」、市役所側が団体をガイドしていかないといけない。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
69	第3回 (10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	民間の人材をトップに据えるルールが明確化していない。民間人材や理事長の報酬を業績に応じて変動させるなど、ルールをもう1回作り直さないと機動的な運営ができない。	財政・変革局	【ガバナンス(団体の自律性)】 適切な団体ガバナンスは、透明性と信頼性を確保し、責任ある運営を実現する。これにより、質の高い市民サービスを安定的かつ公正に提供できるため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで、団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体においてガバナンス(役員体制、経営体制)を再構築する。	R7.6以降	

No	回	議題	指摘事項の内容	担当局	現状報告	期限	実施済
70	第3回 (10月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	期待値が高い外郭団体等に市の幹部候補生のような若い管理職を送り込んで、実際に団体の中に入って、市役所の目で団体の強みを整理することが必要。また、その市の職員に団体が稼ぐ・役割を果たすうえでどうあるべきと中から改革する経験をその積んでもらう。 逆に団体プロパーの専門職の人たちを部長にし、市役所に1・2年出向して議会等について学んでまた団体に戻るなど。	財政・変革局	【マネジメント(ヒト)】 団体にとって、専門知識と高い意識を持つ人材が不可欠である。人材の確保は、サービスの質を維持・向上し、市民の多様なニーズに応えるための基盤となるため、担当局において、団体が関連する政策について今後のあるべき方向性を整理したうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体に不足している人材を市から派遣できる仕組みを構築する。	R7.6以降	
72	第3回 (10月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	ガバナンスについて外郭団体の裁量権が中々ない。裁量権を持たせることで随分変わる要素がある。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
73	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プ ロジェクト	「△検討を要する」課題については、検討結果をマネージすること。	財政・変革局	・R6年12月に「△検討を要する」及び「×解決できない課題」については、制度所管局による検討を行った。 ・しかし、◎、○の課題も含めて、本質的な議論が十分に深まっていなかった事例が多く見られた →事務局において、改めて全件の「課題」を見つめ直し、真に困っている点で解決すべき内容を整理した。 →その整理した課題について、制度所管局が対応策の再検討を行った。 →その結果を、R7第1回X会議で報告。	R7.5	○
74	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プ ロジェクト	「×解決できない課題」は、相手の本当に困っている気持ちに寄り添っていない。根源の課題に応える別のアプローチはできないか考えてほしい。市政変革推進室も少しナビゲートしてあげてほしい。	財政・変革局	・R6年12月に「△検討を要する」及び「×解決できない課題」については、制度所管局による検討を行った。 ・しかし、◎、○の課題も含めて、本質的な議論が十分に深まっていなかった事例が多く見られた →事務局において、改めて全件の「課題」を見つめ直し、真に困っている点で解決すべき内容を整理した。 →その整理した課題について、制度所管局が対応策の再検討を行った。 →その結果を、R7第1回X会議で報告。	R7.5	○
75	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プ ロジェクト	「×解決できない課題」は玉石混交で、直感で当然だと思うものでも、市政変革推進室で深掘りが甘くないか詰めたほうがいい。よく分析してほしい。	財政・変革局	・R6年12月に「△検討を要する」及び「×解決できない課題」については、制度所管局による検討を行った。 ・しかし、◎、○の課題も含めて、本質的な議論が十分に深まっていなかった事例が多く見られた →事務局において、改めて全件の「課題」を見つめ直し、真に困っている点で解決すべき内容を整理した。 →その整理した課題について、制度所管局が対応策の再検討を行った。 →その結果を、R7第1回X会議で報告。	R7.5	○
76	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プ ロジェクト	「×解決できない課題」は、一旦全部差し戻し。全然議論が足りていない。システム部門のやる気のなさが非常によくわかる。何もできないなんて回答にならない。	財政・変革局	・R6年12月に「△検討を要する」及び「×解決できない課題」については、制度所管局による検討を行った。 ・しかし、◎、○の課題も含めて、本質的な議論が十分に深まっていなかった事例が多く見られた →事務局において、改めて全件の「課題」を見つめ直し、真に困っている点で解決すべき内容を整理した。 →その整理した課題について、制度所管局が対応策の再検討を行った。 →その結果を、R7第1回X会議で報告。	R7.5	○
77	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プ ロジェクト	「×解決できない課題」で、法令上ダメというものは、他の自治体がどうやっているのかくらいは最低限調べるべき。本当にダメだという理由が書けていない。	財政・変革局	・R6年12月に「△検討を要する」及び「×解決できない課題」については、制度所管局による検討を行った。 ・しかし、◎、○の課題も含めて、本質的な議論が十分に深まっていなかった事例が多く見られた →事務局において、改めて全件の「課題」を見つめ直し、真に困っている点で解決すべき内容を整理した。 →その整理した課題について、制度所管局が対応策の再検討を行った。 →その結果を、R7第1回X会議で報告。	R7.5	○
78	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プ ロジェクト	電子公印システムはできないと言っているが、ある程度やっているところもあるので、もう一回洗い直すこと。	総務市民局	・電子印(納税証明や住民票のように所定の用紙に個人情報等と電子印が一度に印字される仕組み)については、既に一部の業務で導入している。 ・電子公印システム(電子印を多種多様な様式の任意の位置に押印する仕組み)については、ベンダーと協議を行ったが、セキュリティや真正性の担保が困難であり、他都市での導入事例も確認できない。 ・従来の公印の押印について、国や他都市の仕組みを研究し、代替手段として電子署名を検討する。	R8.3	
79	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プ ロジェクト	これから変更されていく100近いポイント(◎、○の解決される課題)について、全職員に前向きに広報・告知してほしい。	財政・変革局	・プロジェクトチームで洗い出した課題に対する解決策について、制度所管課において、解決に取り組んでいた。いた。 ・取組内容について、一部の取組みは検討中のものや、従前から実施予定であったり、実施済みのももあるが、一定の動きがあったものはまとめてブラチナ市役所プロジェクトのR7.3.31時点の成果として、全職員向けに広報した。	R7.3	○

No	回	議題	指摘事項の内容	担当局	現状報告	期限	実施済
80	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プロジェクト	「△検討を要する」課題のフォローは、検討の期限を決めること。とにかく「順次」はやめたほうがいい。	財政・変革局	・R6年12月に「△検討を要する」及び「×解決できない課題」については、制度所管局による検討を行った。 ・しかし、◎、○の課題も含めて、本質的な議論が十分に深まっていなかった事例が多く見られた →事務局において、改めて全件の「課題」を見つめ直し、真に困っている点で解決すべき内容を整理した。 →その整理した課題について、制度所管局が対応策の再検討を行った。 解決策の実施や解決に向けた検討は、年度末を待たずに出来るタイミングで行うよう事務局から制度所管課に対して行っているところである。 →その結果を、R7第1回X会議で報告。	R7.5	○
81	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プロジェクト	「○代替策もしくは予算次第で課題を解決」が一番問題。本当は2～3割しかできていないというものもいっぱいある。このフォローアップが一番大切なのでよろしく願いたい。	財政・変革局	・R6年12月に「△検討を要する」及び「×解決できない課題」については、制度所管局による検討を行った。 ・しかし、◎、○の課題も含めて、本質的な議論が十分に深まっていなかった事例が多く見られた →事務局において、改めて全件の「課題」を見つめ直し、真に困っている点で解決すべき内容を整理した。 →その整理した課題について、制度所管局が対応策の再検討を行った。 →その結果を、R7第1回X会議で報告。 ・対応が完了していないものについては、R7年度度も引き続き進捗管理を行っていく。	R8.3	○
83	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プロジェクト(討議② 女性用トイレ)	女性用トイレを改修して欲しいという切なる気持ちは非常によく理解できるので、前向きにやって欲しい。一方で、様々な老朽化に伴う使いづらさがある。この建物をいつまで使い続けるかという全体感を持ちながら検討する必要がある。	総務市民局	・R7年度に女性用トイレ1カ所改修及び今後の方向性を再検討するとともに実施設計(改修計画の作成)を行い、R8年度以降計画的に工事を進めていく。 ※ 拡張工事可能なフロアは6フロア(2、6、10、12～14階) ・R7年度予算 14,200千円(設計・施工) ・建替えについては、他都市の事例等の研究を深めていく。	R8.3	
84	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プロジェクト(討議② 女性用トイレ)	働く上でのインフラがどういう状況なのか「見える化」し、優先順位をコストとセットで、働き続ける上で必要不可欠なところからやっていくという整理が必要。	総務市民局	・R3.3に中長期修繕計画を策定し、毎年度計画的な改修を行っている。 ・R7年度 本庁舎等施設長寿命化事業 予算:323,200千円(空調、照明LED化、屋上鉄塔塗装、高圧幹線更新、トイレ改修)	R8.3	
85	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プロジェクト(討議② 女性用トイレ)	女性用トイレは切迫した問題だと思っている。全体を考えるために足を止めることなく、検討を強力に進めてほしい。	総務市民局	・R7年度に女性用トイレ1カ所改修及び今後の方向性を再検討するとともに実施設計(改修計画の作成)を行い、R8年度以降計画的に工事を進めていく。 ※ 拡張工事可能なフロアは6フロア(2、6、10、12～14階) ・R7年度予算 14,200千円(設計・施工)	R8.3	
86	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プロジェクト(討議② 女性用トイレ)	総務市民局と各局の役割分担と検討スケジュール(工程)を明示してほしい。また、財政・変革局と、どういってお金がかかるのか整理して教えてほしい。	総務市民局	・R7年度に女性用トイレ1カ所改修及び今後の方向性を再検討するとともに実施設計(改修計画の作成)を行い、R8年度以降計画的に工事を進めていく。 ※ 拡張工事可能なフロアは6フロア(2、6、10、12～14階) ・R7年度予算 14,200千円(設計・施工)	R8.3	
88	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プロジェクト(討議③ 災害対応)	早く駆け付けられるということは非常に大きなメリット。できることからやってみて、やってみたうえでのデメリットが解決できないかどうかという取組みをしてはどうか。	危機管理室	令和6年度において、現状の把握(各区へのヒアリング)、他都市調査、避難所と職員居住地の分布状況の確認、課題の整理を行い、令和7年度を準備期間とし、令和8年度に試行運用を行うように決定。 令和8年度に向けて、現在本庁職員を配備する避難所の選定及び本庁職員の選定方法の検討を行っている。	R7.9	
89	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プロジェクト(討議③ 災害対応)	危機管理は、職員がやりたい気持ちになるような精神的な負担の解決が非常に大事。	危機管理室	令和6年度において、現状の把握(各区へのヒアリング)、他都市調査、避難所と職員居住地の分布状況の確認、課題の整理を行い、令和7年度を準備期間とし、令和8年度に試行運用を行うように決定。 令和8年度に向けて、現在本庁職員を配備する避難所の選定及び本庁職員の選定方法の検討を行っている。	R7.9	
90	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プロジェクト(討議③ 災害対応)	災害対応の時は、距離によって危険もリスクも増えるので、居住地に近い人がやるメリットはある。課題もあるが、色々なやり方があると思うので、すべて検討し、対処していくべき。	危機管理室	令和6年度において、現状の把握(各区へのヒアリング)、他都市調査、避難所と職員居住地の分布状況の確認、課題の整理を行い、令和7年度を準備期間とし、令和8年度に試行運用を行うように決定。 令和8年度に向けて、現在本庁職員を配備する避難所の選定及び本庁職員の選定方法の検討を行っている。	R7.9	
92	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プロジェクト(討議③ 災害対応)	災害対応はものすごく大きな問題なので、最適化をどうするか真剣に考えてもらいたい。しっかり時間軸を切って、明確に検討を進めてもらいたい。	危機管理室	令和6年度において、現状の把握(各区へのヒアリング)、他都市調査、避難所と職員居住地の分布状況の確認、課題の整理を行い、令和7年度を準備期間とし、令和8年度に試行運用を行うように決定。 令和8年度に向けて、現在本庁職員を配備する避難所の選定及び本庁職員の選定方法の検討を行っている。	R7.9	
93	第4回 (11月)	スポーツ振興事業	まちなかでのアーバンスポーツ実施における道路など、他部署と協力しながら進めてほしい。	都市ブランド創造局	令和6年度に公園の活用について担当局と協議を実施した。 今後も必要に応じて、関係局と協議しながら進めていく。	R6年度末	○
94	第4回 (11月)	スポーツ振興事業	今後のスポーツ行政の中におけるアーバンスポーツの取り組みの位置づけがよくわからない。スケール感、数字、投資、リターンイメージがない。	都市ブランド創造局	経営分析報告書(スポーツ振興事業)において、スポーツ施策にかかる課題を整理したうえで、アーバンスポーツの聖地化に向けた施策の検討などを行うこととし、経営分析報告書にまとめ、公表した。 引き続き、経営分析報告書に基づき検討を行うとともに、費用対効果の検証などについても実施していく。	R7年度末	

No	回	議題	指摘事項の内容	担当局	現状報告	期限	実施済
95	第4回 (11月)	スポーツ振興事業	もっと論理的に、北九州のスポーツのどこが優位性なのか、どこの部分に重点を置いて、今までがどうで、どこの部分に重点を置いていくのか差別化をはかる部分と、競争していく部分と、もう少しきちんと考えるべき。	都市ブランド創造局	経営分析報告書(スポーツ振興事業)において、「稼げるスポーツ」と「市民・地域スポーツ振興」を図ることとし、スポーツ施策にかかる課題を整理したうえで、重点化する取組や、その方向性、具体案を記載した。	R6年度末	○
96	第5回 (12月)	区役所のあり方検討	区役所のあり方といったときに、本庁と一体となって公助を届ける区役所と、地元と一体になって共助をサポートする区役所という2つの顔があって、この2つを分けてしっかり議論した方がいい。	総務市民局	公助の部分については、区長会議などで検討する。共助の部分については、令和7年度から「北九州市地域コミュニティビジョン」策定の議論を開始しており、地域コミュニティの将来像として共助のあり方などを検討し、必要に応じて区長会議に報告、意見交換を行う。	R7年度中	
99	第5回 (12月)	区役所のあり方検討	市民センターという切り口で経営分析ではないけれども、もう一回しっかり見た方がいいかもしれない。或いは共助のあり方かもしれないけれども、これはそこが強くないと、結局市役所のパワーも上がらない。	総務市民局	令和7年度から「北九州市地域コミュニティビジョン」策定の議論を開始しており、地域コミュニティの将来像として共助のあり方などを検討する。市民センターのあり方もこの議論を踏まえ検討する。	R7年度中	
101	第5回 (12月)	環境施策	「サステナブルシティとは一体何だ」ということ自体をきちんと作り直し、外に対してアピールするものを見えるようにするべき。	環境局	「サステナブルシティ」については、今後、全庁的に議論される予定となっている。環境政策はその中核となるものと考えており、カーボンニュートラル／サーキュラーエコノミー／ネイチャー ポジティブといった取組を可視化し、PRできる方向で検討を進める。環境学習施設のあり方もサステナブルシティの方向性と整合をとり検討を進めている。	R8.3	
102	第5回 (12月)	環境施策	環境学習施設について、エコタウンセンターは警備全体を外への発信のコアとして位置付けて、環境ミュージアムと警備ビオトープは、地元の子どもたち向けという形で割り切ったほうがいいのか。	環境局	現在、各環境学習施設の機能(サステナブルシティとしての本市の成り立ち、環境問題の本質、環境ビジネスのショーケース等、発信すべき内容)やターゲット(toC・toB等)を整理し、強めるべき部分や、機能分担を含めた検討を進めている。	R8.3	
103	第5回 (12月)	環境施策	環境学習であれば最先端のものを発信していく必要がある。	環境局	現状はパネル展示等が中心となっているが、最新の情報に更新しやすい映像等のデジタルコンテンツ中心の発信手法を検討する。	R8.3	
104	第5回 (12月)	環境施策	市役所は、企業が自らの技術や取組みの凄さを発信することをバックアップするような発信の転換をする必要がある。	環境局	現状、エコタウンセンターや環境ミュージアムの一部で、エコタウン企業やエネルギー関連企業の取組を中心に発信している。今後もそれら企業の取組について協働して発信していくのはもちろんのこと、それ以外の市内企業の持続可能な取組についても情報発信のバックアップを進めていく。	R9.3	
105	第5回 (12月)	環境施策	北九州市のポテンシャルのある情報を上手く発信できていないことが問題ではないか。何をターゲットに取り組んでいくのかをまず整理し、1度見た方に興味をもってもらうためにコンテンツをどう発信するか、必要な手段を考えるべき。	環境局	カーボンニュートラル／サーキュラーエコノミー／ネイチャーポジティブの重要性と取組を可視化し、総合的に展示する国内随一の拠点とすることを目指す。各施設の機能とターゲットに応じた内容・手段を再考する。訴求力向上のため、市の政策説明にとどまらず、「オール北九州」の視点で市内企業や団体の取組をコンテンツに加える。具体的な発信方法や手段は、これらを整理した上で検討する。	R8.3	
106	第5回 (12月)	環境施策	環境ミュージアムを残すのであれば、展示について、公害克服の時代から今に至るまで全ての環境の北九州市の取組を見ることのできる、アップデート可能なデジタルコンテンツを中心に展示していく必要がある。	環境局	環境ミュージアムについては、改めて機能やターゲットを整理し、市民向け環境学習施設としての機能を強化する。展示についても、現在のパネル中心の展示ではなく、映像等のデジタルコンテンツ中心の発信手法を検討する。	R9.3	
107	第5回 (12月)	環境施策	北九州市の環境は直近のトレンドに追いついているので、うまく発信していくことで企業誘致にもしっかりと繋げていくといいのではないかと。	環境局	環境分野の先進的な取組を可視化し、環境ビジネスのショーケースとして、総合的に展示、効果的に発信することは、企業誘致の観点からも本市に不可欠な機能として整理済。現時点では、エコタウンセンターにその中心的な役割を持たせる方向で、具体的な内容や発信方法等を検討している。	R9.3	
108	第5回 (12月)	環境施策	エコタウンの中だけに閉じるのではなく、まち全体を、どうやって脱自動車、CO2排出等のグリーンシティに変えていくのかという全体像の中で、世界をターゲットに警備エリアをPRできるかというのではないかと。	環境局	まちの全体像については「サステナブルシティ」をテーマに、今後、全庁的に議論される予定となっている。環境局としては、環境学習施設のあり方や、カーボンニュートラル／サーキュラーエコノミー／ネイチャーポジティブを切り口とした警備エリアの一体的なPR手法等を検討する。	R8.3	
109	第5回 (12月)	局区X方針の取組状況	課題の数が多過ぎる。数が多いと、時間・人手が足りなくなり、どうしてもやつつけ仕事になってしまう。課題の数減らしを考えた方がいい。特にBとCについては。	財政・変革局	事務局及び各局区が、X方針に定める課題を「進捗状況を的確に把握・評価できるもの」にバージョンアップさせる過程で、B・C課題について、課題数の整理を行う。現在、R7局区X方針を作成中。	R7年7月	
110	第6回 (1月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	全体的に過小投資が課題。人材をもっとしっかり雇えばいいし、事業費も総花でばらまかず、もっと大事なところに集中的に出せばいいのではないかと。	財政・変革局	【ガバナンス(団体の自律性)】適切な団体ガバナンスは、透明性と信頼性を確保し、責任ある運営を実現する。これにより、質の高い市民サービスを安定的かつ公正に提供できるため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで、団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体においてガバナンス(役員体制、経営体制)を再構築する。	R7.6以降	

No	回	議題	指摘事項の内容	担当局	現状報告	期限	実施済
111	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	市役所側には議会の都合等別の都合があると思うが、団体側が持っている問題意識として、「本当はこうすれば良い」と思っている案があるのなら、しっかり吸い上げたほうがいいのではないか。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
112	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	政策立案能力も団体の方が高いと思われる分野もあり、分野によっては市役所の中で議論するより団体と議論した方が、市民に直結した良い政策が出てくるのではないか。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
113	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	各担当局が団体から学ぶことが重要。現場の実態をしっかりと団体に教えてもらうことが一番重要で、これには定期的なコミュニケーションが必要。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
114	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	「お困りごと相談係」として、オール市役所として全団体をしっかり見て、団体側の立場に立つてサポートする駆け込み寺のような機能が本庁側に必要ではないか。団体が健全に育っているのかという視点からのサポート的な個別対応が重要。	財政・変革局	「政策連携団体との協働に関する要綱(令和7年4月策定)」第5条(制度所管局長の責務)に基づき、今年度中に政策連携団体が抱える業務運営上の課題を解決するための相談窓口を設置し、適切な助言及び指導を開始する予定。	R7年度中	
115	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	市役所OBの使い方も、その分野のプロであれば市役所OBがやれば良いが、「プロでないのであればこの団体には向いてない」といった差配をしっかりとやる必要がある。	財政・変革局	【マネジメント(ヒト)】 団体にとって、専門知識と高い意識を持つ人材が不可欠である。人材の確保は、サービスの質を維持・向上し、市民の多様なニーズに応えるための基盤となるため、担当局において、団体が関連する政策について今後のあるべき方向性を整理したうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体と担当局の協議により、市OBも含め必要な人材の能力を明確化する。	R7.6以降	
116	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	現役の活きのよい人、40代のバリバリの人を団体の第一線に送り、2、3年は現場の実態を勉強させる。或いはそこで改革を実際に経験したり、団体がさらに外注している民間事業者等とのリアルな現場業務のやり取りなど、民間外注の厳しさを自分で経験する。本庁にいて「団体経由で何かやらせている」という感じでは、そのまま管理職や局長になればますます現場から乖離していく。若手の元気な人を団体に戦略的に出向させるべき。	財政・変革局	【マネジメント(ヒト)】 団体にとって、専門知識と高い意識を持つ人材が不可欠である。人材の確保は、サービスの質を維持・向上し、市民の多様なニーズに応えるための基盤となるため、担当局において、団体が関連する政策について今後のあるべき方向性を整理したうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体に不足している人材を市から派遣できる仕組みなどを構築する。	R7.6以降	
117	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	団体のプロパーで頑張ってる幹部になった人達の一部も、逆に本庁に出向をさせる。議会がいかに大変な作業かということを知ってもらうと、コミュニケーションは非常に密になるのではないか。	財政・変革局	【マネジメント(ヒト)】 団体にとって、専門知識と高い意識を持つ人材が不可欠である。人材の確保は、サービスの質を維持・向上し、市民の多様なニーズに応えるための基盤となるため、担当局において、団体が関連する政策について今後のあるべき方向性を整理したうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体に不足している人材を市から派遣できる仕組みなどを構築する。	R7.6以降	
118	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	局区毎にX方針を作る作業をしているし、経営分析も塗上だが、重要な情報や良いヒントはかならず団体の中にあるので、その作業自体も団体との接点を持ちながらやっていく必要がある。抽象的に本庁の中で考えていても、事実と現場を知らない議論になってしまうリスクがある。政策立案、改革においても、団体を重視してやるべき。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
119	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	政策連携団体がポテンシャルを発揮できる基準については、先に基準ありきではなくて、各団体の担当局における検討を聞きながら、それを踏まえて、基準化のような目線をもって整えていく。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
120	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	ある団体が運営する何かしらの機能を持つ施設があった場合、団体の役割を定義するときに、ある程度広域から人を招いていくという施設になると、他の都市、他の同様の施設等の他の同様のものと比較した場合に、それは差別化として、きちんと誘致できる機能や能力を持っているものになり得るのか、というような基準が発生する。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	

No	回	議題	指摘事項の内容	担当局	現状報告	期限	実施済
121	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	一律的に団体を処理していくのではなく、一つひとつのものを、時間軸のこれまでの変化の中できっちり役割を再定義していく中で適切な基準を設けて、投資やリソース配分を考えていく。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
122	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	上山顧問がいろいろ団体のヒアリングを行って評価をしていただいているが、可能であれば、ぜひ担当局にはフィードバックしてもらいたい。	財政・変革局	ヒアリング実施(令和6年12月、令和7年2月)後、その結果については担当局に口頭で伝達済。	R7.2	○
123	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	団体が頑張った評価をどうするのか。例えば「黒字をつかって従業員の給料を上げたい」としても、市から認められなかった。その裁量はどうしていくかが、団体と話をするときの最低条件。「優秀な人間がいれば経営が改善するので、職員を採用したい」と言っても、市から簡単に承認されなかった。とにかくその辺りの裁量さえ与えれば、かなり変わってくるので、その点を前提として考えてほしい。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
124	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	団体・局が何をやるのかの役割は、変革という意味では分かったが、その責任の所在が不明瞭。今回「政策連携団体の改革」の責任の所在はどこにあるのか。団体も変革するし、局も変革する。財政・変革局も仕組みを変革する。その役割別に責任を負うということであればそれも良いが、少しそこが分かりにくい。「外郭団体の変革」に、どんな役割とどんな責任を持たせるかが明瞭になると、よりその方の責任で取り組んでいくので、分かりやすくなる。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
125	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	各団体が「何が出来て・出来ない」というのをまず自主申告する。だから「責任と権限はどこにあるのですか」というと、やはり一義的には各団体の理事長や社長で、「でも、この程度の予算では出来ません」という権限を最初に与えた方がよい。或いは「もっと人とお金をくれたらできる」等を彼らにまず言わせる。 担当局がそれを聞いて「自分たちはどうするか」と、「お金ないから、お宅(政策連携団体)に頼みません」というような議論だってあってよい。 出資者としての市が出てきて、その二者の会話を聞いて「ではこうしよう」という順番が私はとても大事で、団体のあるべき姿というのを、財政・変革局と担当局でまず議論するというのは最悪。絶対にやってはいけない。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
126	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	ルール面の変更は、制度として形骸化、陳腐化しやすい。この辺りを担保する仕組みとして先程の連携協定もあると思うので、活用しながら、ぜひ運用で効果的なものが出てくるように仕組みを作っていただきたい。 既存の外郭団体の外部評価の仕組みも活用しながら、各ポテンシャルを活かしていける流れを作っていただきたい。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
127	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	団体自体がそもそも団体の設置目的があるので、もう少しサービスを提供する利用者の方に対して、団体としての意思もきちんと持つように、そこは市としても話をしていく必要があるのではないかと。	財政・変革局	【ガバナンス(団体の自律性)】 適切な団体ガバナンスは、透明性と信頼性を確保し、責任ある運営を実現する。これにより、質の高い市民サービスを安定的かつ公正に提供できるため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで、団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体においてガバナンス(役員体制、経営体制)を再構築する。	R7.6以降	
128	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	団体の理事長もしっかり経営者目線で見ていいる。常にそういう人ばかりではないので、そのトップについてもうどうふうにか考えていくかということについては、考えていく必要がある。	財政・変革局	【ガバナンス(団体の自律性)】 適切な団体ガバナンスは、透明性と信頼性を確保し、責任ある運営を実現する。これにより、質の高い市民サービスを安定的かつ公正に提供できるため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで、団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体においてガバナンス(役員体制、経営体制)を再構築する。	R7.6以降	
129	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	市役所の持っている団体に対する危機感と、団体の皆さんが人知れず口に出せず持っていた危機感、人の問題でもお金の問題でもいろいろな面でのもの凄いの危機感のギャップに、市役所側は本気で向き合わなければならない。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	

No	回	議題	指摘事項の内容	担当局	現状報告	期限	実施済
130	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	OB・OGの方がトップとして団体に行っている。企業体の経営をどうするかとか、どういふうに世の中のこのサービスを作っていくとか、その辺りを多少学んだり研修するといったものがなくて良いのかなと思う。どういふうにトップの方がより力を、その方のポテンシャルを発揮できるか。トップも動かなければならぬので、そこも何かサポートする必要がある。	財政・変革局	【マネジメント(ヒト)】 団体にあって、専門知識と高い意識を持つ人材が不可欠である。人材の確保は、サービスの質を維持・向上し、市民の多様なニーズに応えるための基盤となるため、担当局において、団体が関連する政策について今後のあるべき方向性を整理したうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体と担当局の協議により、市OBも含め必要な人材の能力を明確化する。	R7.6以降	
131	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	現場や事実等を知っている方々と、担当する部局の方が、頻りにコミュニケーションして実際に見ていくということは、絶対に直ぐ、クイックにやってもらいたい。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
132	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	実際、現場に近いところで団体側が何をしたいのかを把握し、こういうことをしたいのになというのをはっきり一緒にプロジェクト化していくということもやっていくべきではないか。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
133	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	演繹的にあまり「こうあるべき」とか「こうだからこうである」と考えるより、一番、そこに接点を持っている団体の人にどんどん聞いてやっていく。組織論とか機構論から入らず、サービス論から入っていくという方向に重点を置いてほしい。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
134	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	特に再定義については、市長、副市長3名も含めて、全団体を皆さんとしっかりと見ていくというプロセスを踏んでいく。1つでも大きく生まれ変わる好事例が出てきたら、それをしっかりとみんなで学んで、横に広げていく。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。 連携協定に基づく、見直しの成果については、適宜、X会議で報告する予定。	R7.6以降	
135	第6回 (1月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	団体のことについてもしっかり局長がグリップをして、進化させてほしい。そしてぜひ一緒にやっている仲間たちなので、彼女たちのモチベーションが上がるようにしていくことが、私たちにとってもプラスになるというふうにやっていく。	財政・変革局	【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、担当局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を担当局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
112	第6回 (1月)	プラチナ市役所プロジェクト	改善の取組みの結果がどうだったかということX会議でモニターさせていただきたい。	財政・変革局	・事務局において、改めて全件の「課題」を見つめ直し、真に困っている点で解決すべき内容を整理した。 ・整理した課題について、制度所管局が対応策の再検討を行った。 ・対応が完了していないものについては、R7年度度も引き続き進捗管理を行っていく。 ・その結果は、X会議でも随時報告させていただく。	R8.1	